西亞地方に於いてカルデヤ地方の人種と接近して居住せるものなるを說けるが如きは、アイヌが高加索人にして或はProto-Nordicsと共同起源を有すとなす所說に一歩を進め、ラクーペリー氏、ポール氏等の見解の新裝とも見る可し。此の興味ある大膽なる假說が日本人たる著者によりて唱道せられたるは、吾人の最も注意せんと欲する所にして、時機を得て吾人の之に關する態度を明にする所ある可し。要するに近時に於ける日本人種學考古學上の一大著と稱するは誰人も首肯する所ならむ。（東京帝國大學理科大學發行　價七、八〇）（以上濱田）

●熊本縣史蹟調査報告　第一回　熊本縣調育會編

熊本縣の史蹟調査保存の事業は一昨年初己來同縣教育會に屬し着々歩を進め、昨年末に至り其の第一回の調査報告を出せり。此の書菊版百五十餘頁、附圖三十一枚より成り、十數名の委員が大正六年九月より仝七年三月に亙る期間に於て調査せる貝塚、古墳城址、神社、佛閣、老樹、古文書、繪畫、佛像等の各方面に亙る記事を載せ、特殊の遺跡例へば阿高貝塚　江田の古墳等に就いては專門家の報告を掲げたり。其の包括せる代は上は石器時代より下は德川時代に及び、遺蹟の種類またあらゆる方面に亙りて、從來此の種の報告の多く一方に偏せるに反したるは、史蹟調査の主らず。こゝに論ぜんとする肖像畫は自然に對する觀察精緻とな

意より見て最も採るべき点と云ふべく、本書の內容また阿高貝塚の如き、八代中宮祠の寶篋院塔の如き、天草南蠻寺址の如き興味あるもの少なからず。印刷圖版共に鮮明なるも喜ぶべく、近時同樣主意の書の續々出版せらるゝに際し參考に資する所少からざるべし（熊本縣教育會發行　非賣品）（梅原）

●雜　誌

●足利時代と肖像畫　文學博士　原　勝郎

（國華三三三、――四號所載）

日本文明は王朝と德川の両時代に於てのみ進歩を成就したるにあらずして、亂離の極の如く見做さるゝ足利時代に於ても當時の人には後人の思惟する如く不安の念を與へず、時代の特殊なる文明は休止することなく發達を續けたり。足利時代は永享の末までを以て登り坂とし、嘉吉の義教將軍の弑逆を一轉として下り坂に就きたるものと見るべく。其初期に於ては已に經濟上の發達あり、餘裕ある生活と共に因襲は其勢力を失ひつゝありしなり。義教將軍は酷薄の名ありと雖織田信長以前已に山門の燒打を命したる如きを見ても新時代の魁をなす素質ある頃政治家たりしやも知るべからず。時代は下層民の頭を扛げ來ると共に個人主義が漸く地歩を占め來る時代なり。これ肖像畫の發達を遂ぐる時代なり。

佛畫より轉化したる人物畫はこゝに肖像畫として論ずべきに

り、人間を特殊なる存在とし興味の對象と認めらるまでに文化の發達したる以後の肖像畫なり。隆信の描くところの肖像畫の如きも典型的なる描寫に成功したるのみ。よく個性を發揮したりとは言ひ難し。肖像畫發達に禪宗の影響を說くものあれども、たゞ肖像の師資相授がこれを助けたりと云ふならば鎌倉時代に於ても肖像畫の發達を見るべきなり。禪宗が我國の肖像畫發達に與つて力ありしは、爭ふべからざるも、其が弘布し我國民に個人主義が根抵を占め個性が顯著に發揮さるゝに至るには多くの年處を經ざるべからず。足利時代はこの宗教上の感化ある外之に應じて經濟上の事情あり、又需要者卽ち注文主の增加するあり、又更に畫家技倆の個性を供へ其を發揮する程度の進步あり。かくの如く條件の具備によつて、鎌倉の基氏の肖像あり、義滿の肖像亦一にあらず應永十六年以前より顯貴の肖像を描くこと行はれ、以後武將の間にも之れを求むるもの多く周文全盛時代の畫家によつて肖像畫大に行はれしなり。

應仁以後政治の狀態變化ありと雖、社會は想像するよりは恬淡にして、諸種權威が其尊敬と抑束力を減ずると共に個人主義勢を得、顯要の人ならざるも亡親の像を畫き、或は京都の商人、能役者、連類師の肖像を描かしめしものあること翰林胡蘆集によつて窺ひ得、現今殘存する此時代の肖像畫には個性發揮に於て頗る妙處に至れるものあり宗祇像の如き其一例なり。足利時代はかく前時代に見ること能はざる肖像畫の發達を成就し其發達は日本の一般文化史に密接なる關係を有する、興味ある問題なり。

●九姓回鶻とToquz Oguzとの關係を論ず

文學士　羽田亨

（東洋學報第九卷第一號）

回鶻なる部族の名の著名となりしは唐代にして新舊唐書の記載を以て其の詳細を知悉し得るも、其の漸く支那人に知らるゝに至りし最初は實に南北朝時代に在り、而して之が九姓回鶻と稱する所以は舊唐書回繪傳に其の各名を列擧し回鶻が此等九姓部落の地を占め之を統一したるが爲に起れる名とせり、然るに唐會要には九姓に關して異說を揭げ唐書所算の九種名と全然相異なる九姓を列擧し居るは研究者の取捨に惑ふ所たり、而して唐代の史籍も單に九姓として記さるゝ部族はChavannes此などに專ら之を回鶻又は援野古を指せるものと解し居れどもそは謬見なるべく、思ふに全く別箇の團隊ならん。余は其の九姓鐵勒を意味するならむも思ふや深し、余の調査研究する所に據れば所謂九姓なる名は必しも回鶻援野古等の各々が九部族より成立し居りし爲には非ざるべく回鶻、援野古、思結、同羅、僕固等の諸部が九姓の中の一部なるが如く、從つて唐會要の記載は正鵠を得たるものと信ず。卽ち唐

代に單に九姓と稱するものは藥羅葛以下の九姓より成りし回鶻を指ぜるものにも非ざれば、又九姓の名を冠したる部族は決して回鶻のみにも非ざること明けし、今此を唐代トルコ民族の殘せし突厥碑文回鶻碑文等に對照研究せむに默棘連可汗碑文にUigur の名見ゆ、同時にOguz又はToquz Oguz 即ち九オグーズなる部族名の見ゆるあり、此に關する從來の西洋學者の解釋は區々にしてMarquart, Hirth 諸氏はOguzはUigur をはじめ其の他の諸部を含みたる總名即ち全体と部分との關係なりと觀Radloff Thomsen諸氏はOguzもUigurも各々相對の一部族の名なりと觀更に Toquz Oguzと九姓回鶻との關係に於てはRa lloff 氏は互に別箇の名稱にして相互の間に直接關係無しとしThomsen氏はOguz が九姓より構成せられたるが爲にToquz Oguz 即ち九姓と稱せるものにて九姓回鶻なりと觀Marquart氏はOguzは回鶻及び其の他の拔野古、同羅等諸部の總名にしてToquz OguzはOguz中にて九姓より成れる一團隊の名稱にてこれ亦漢史の九姓回鶻に相當するなりと觀察せり、余の管見を以てすればOguz なる文字には姓の義存し闕特勤默棘連可汗敦欲谷の諸碑文に徵するにOguzは即ちToquz Oguzにして畢竟一種族なるを知り得ると共にOguz 又はToquz Oguzとは漢史に見ゆる鐵勒の九姓に屬する思結及び其の他の諸部に當るものと觀得られ決して回鶻を指せるに非ず。又九の數なるものも唐書に列擧せる回鶻の九姓の數に相當するものに非ず云々

司馬遷の自由放任說

法學士文學士　小島祐馬

（政治學經濟學論叢所載）

司馬遷の史記に見ゆる經濟政策は平準書貨殖傳等によりて窺ふに老子の說くが如き理想社會は千萬年の後と雖も實現し得るものに非ざれば人が自己の利慾心を滿足せむが爲に活動する社會を治むるには之を自然の儘に放任するを以て最上の策と爲し之を欲望に從つて利導するを以て之に次ぐ政策と爲し道德を以て敎誨し、法律を以て整齊するを以て更に之より下れる者と爲し、政府の諸種の事業を經營して人民と營利を競ふに至つては最其の策を誤りたる者とせり。而して其の最上策とする自由放任主義に關聯して富者を尊崇すべきことを謂ひ、社會の各人が自己の利益を追求することを是認し自然の勢の儘に之を放任する時は、自ら富者と貧者との懸隔を生ずれば貧者の富者に壓倒せらるゝは已を得ざる數なり、從つて道德と經濟との關係に於ては經濟を以て道德の先行條件なりと爲し、其の治者たると被治者たるとに論なく、經濟の充足せざる所に全く道德無しとせり。但し彼が庶民階級に於ては其利心を是認し、士大夫以上に於ては之を是認せざる點は不徹底の說なりと謂ふべきが、そは儒家道家兩樣の思想を雜へ採れる彼の思想に取りては免れざる所なるべし、云云〔以上那波〕